



# 「ゾーン30」に指定された道路で車両は 制限速度を守り歩行者保護を心がけているか？



**Why**  
生活道路における  
交通事故件数の  
減少幅は小さい

平成24年の交通事故死者数は4411人。これを状態別にみると、最も多いのが歩行者(1634人)で全体の3分の1以上を占めている。また、警察庁の資料によれば、車道幅員5・5m以上の道路における交通事故件数は10年前と比較して34%減少しているのに対し、生活道路と考えられる車道幅員5・5m未満の道路における交通事故件数は18%の減少にとどまっている。こうした状況のなか、現在全国で「ゾーン30」の取り組みが広がっている。これは、歩行者等の安全な通行を確保することを目的に、区域(ツ

ーン)を定め30km/hの速度規制を実施するなど、ゾーン内を抜け道として通行する行為の抑制等を図る生活道路対策だ。そこで今回は、「ゾーン30」に指定された道路を走行する車両の速度と、運転者の歩行者などへの対応を観察した。

観察場所は埼玉県川口市内の住宅街。幹線道路につながる歩道がない道路は、脇道が多いため見通しがあまり良くない。スーパーマーケットの駐車場に面しており、買い物客のクルマが多く走行していた。一方、歩道が整備された道路は600m以上続く直線で、抜け道として利用されている。そのため走行する車両はトラックや営業車が目立っていた。

**Q1**  
歩道と車道が分離されていない道路を  
30km/h以下で走行していた車両  
は何%だったでしょうか？

**A1** 実際の観察から

★Q1の回答

235台中64台(27.2%)

観察場所を通過した車両は合計235台。速度を意図的に30km/h以下に落としていた運転者は全体的に少なかった。ただし、歩行者や自転車に気をかけ、安全に通行しようと減速するクルマは多かった。

運動公園の入り口にさしかかる際には、子どもの飛び出しを用心して徐行するなど、歩行者や自転車に配慮した走行をする車両の多くは、近隣のスーパーマーケットに出かける買い物客が運転するクルマだった。普段から道の状況を知っているため、慎重な運転を心がけている印象だった。

また、脇道から合流するクルマがあるなか、危うく出会い頭に衝突しそうな場面に遭遇した。



自転車に乗る小学生を見つけ、減速して間隔をとる



横断する自転車の前で一時停止

歩道と車道が分離されていない道路の観察は17時から実施した。歩行者や自転車の数が少なめではあったが、「ゾーン30」の制限区域内にも関わらず、通過する車両のほとんどが30km/h以上のスピード

帯が発生することもあった。歩道と車道が分離されている道路の観察は17時から実施した。歩行者や自転車の数が少なめではあったが、「ゾーン30」の制限区域内にも関わらず、通過する車両のほとんどが30km/h以上のスピード

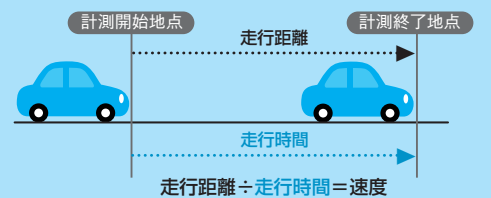
帯が発生することもあった。歩道と車道が分離されていない道路の観察は小中学校の授業が終わる15時から実施した。観察中に通過した車両は235台。歩行者や自転車への配慮を徹底する車両と、気を配らずに走行する車両、両極端のケースが見受けられた。

**Advice**

生活道路走行時は  
歩行者・自転車に  
対する一層の配慮を！

●車両速度の計測方法

今回は観察現場2カ所で1時間ずつビデオ撮影を実施。観察する車両が目標区間を通過する時間をビデオ編集ソフトを使って計測し、区間の走行距離と通過時間から速度を算出した。



歩道と車道が分離されていない道路の観察は17時から実施した。歩行者や自転車の数が少なめではあったが、「ゾーン30」の制限区域内にも関わらず、通過する車両のほとんどが30km/h以上のスピード

帯が発生することもあった。歩道と車道が分離されていない道路の観察は小中学校の授業が終わる15時から実施した。観察中に通過した車両は235台。歩行者や自転車への配慮を徹底する車両と、気を配らずに走行する車両、両極端のケースが見受けられた。

帯が発生することもあった。歩道と車道が分離されていない道路の観察は小中学校の授業が終わる15時から実施した。観察中に通過した車両は235台。歩行者や自転車への配慮を徹底する車両と、気を配らずに走行する車両、両極端のケースが見受けられた。

生活道路走行時は  
歩行者・自転車に  
対する一層の配慮を！



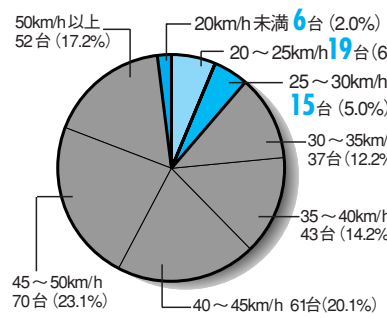
歩道から飛び出した自転車の前で急減速

**Q2**  
歩道と車道が分離されている道路を  
30km/h以下で走行していた車両  
は何%だったでしょうか？

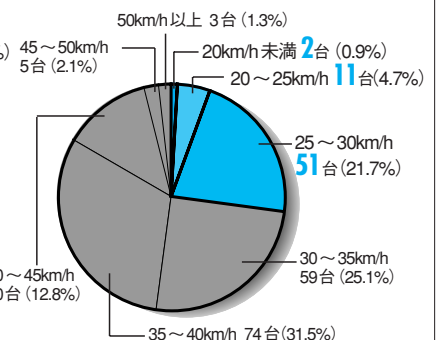
**A2**

実際の観察から

●歩道のある見通しのよい直線道路の走行速度(303台中)



●歩道がない道路の走行速度(235台中)



観察場所を通過した車両は合計303台。「ゾーン30」の標識が設置されているが、ほとんどの車両は30km/h以上で走行しており、50km/h以上の車両は52台(17.2%)にのぼった。



路側帯を走る小学生の横を減速せずに通過

★Q2の回答  
303台中40台(13.2%)

歩道が整備されているのは片側のみ。対向車線には路側帯が設けられていた。運転者は歩行者を認識しても減速することは少なかった。見通しがよいためか、スピードを落とさず慎重に走行する車両はほとんど見かけなかった。

習い事や部活動から帰る小中学生の一人歩きを多く見かけたが、クルマのことはほとんど意識せずに歩いていた。また、逆走する自転車が多く見かけられた。